



第116期 中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

曙ブレーキ工業株式会社

CONTENTS

株主の皆様へ	02
TOPICS	04
中間連結業績の推移	06
中間連結貸借対照表／中間連結損益計算書	08
セグメント情報／中間連結キャッシュ・フロー計算書	09
株式の状況／役員一覧	10
株主メモ	11

■ 株主の皆様へ



代表取締役会長兼社長

信元久隆

ごあいさつ

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第116期中間期(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)の営業状況をとりまとめましたので、ここに本報告書をお届けいたします。

平成23年11月1日開催の取締役会において、本年度の中間配当金を1株につき5円とし、その効力発生日を平成23年12月5日とすることを決議いたしましたので、同封の「配当金領収証」により、払渡しの期間中(平成23年12月5日から平成24年1月18日まで)に、最寄りのゆうちょ銀行または郵便局にてお受け取りください。なお配当金の口座振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」を同封しましたので、ご確認ください。(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)へお問合せください。)

営業の概況

当中間期は、中国を中心にアジアの自動車生産台数が引き続き堅調に推移しており、北米においても緩やかな生産回復基調にあります。日本においては、節電対策や輪番操業などの努力をおこない直近では震災前の生産水準まで回復してきました。

このような状況のもと、売上高は震災による受注減少の影響、円高影響により**1,063億円**(前年同期比**8.9%**減)となり、利益面においては、震災対応等による固定費(自家発電コスト、サプライチェーン点検コスト等)増加、資材高騰の影響等から、営業利益は**17億円**(前年同期比**78.8%**減)、経常利益は**9億円**(前年同期比**88.6%**減)、中間純利益は**1.5億円**(前年同期比**97.0%**減)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①日本

当中間期前半は、震災による完成車メーカーの生産低迷により受注は減少しましたが、後半は震災前の水準にまで回復してきました。しかし、前半の受注減少の影響により売上高は**461億円**(前年同期比**4.5%**減)となり、前期業績と連動した人件費の増加等により営業利益は**25億円**(前年同期比**50.4%**減)となりました。

②北米

円高影響により売上高は**514億円**(前年同期比**14.7%**減)となりました。利益面では、ロバートボッシュL.L.C.から引き継いだ赤字契約の数量が引き続き高水準であったことや原材料価格・原油価格の高騰による収支の悪化、「在外子会社の事業譲受に係る特定勘定」の取崩が第1四半期で終了したこと等により営業損失は**25億円**(前年同期は営業利益**14億円**)となりました。

③欧州

欧米系の完成車メーカーからの新規受注獲得により売上高は**26億円**(前年同期比**34.2%**増)と増収となりましたが、原材料価格の高騰などにより営業損失は**1.2億円**(前年同期は営業損失**0.7億円**)となりました。

④中国

日系自動車メーカーからの受注が好調に推移していましたが、日本での震災の影響もあり、当中間期では受注が減少し売上高は**24億円**(前年同期比**3.2%**減)となり、営業利益は**3億円**(前年同期比**24.5%**減)となりました。

⑤タイ

受注は引き続き順調に推移しましたが、タイにおいても日本での震災の影響もあり一時的に受注が減少した結果、売上高は**16億円**(前年同期比**4.9%**減)となり、営業利益は**2億円**(前年同期比**18.4%**減)となりました。

⑥インドネシア

日系の二輪車及び四輪車メーカーからの受注が引き続き堅調に推移し、売上高は**72億円**(前年同期比**0.3%**増)、営業利益は**13億円**(前年同期比**2.6%**増)となりました。

通期の業績予想につきましては、タイ洪水の影響や為替レートの円高定着による輸出減少懸念などはあるものの、日本の完成車メーカーによる下半期の増産計画やアジア地域を中心とした収益改善による挽回も期待できるため、平成23年6月14日に公表した数値を据え置いています。下半期も厳しい状況が予想されますが、業績予想数値の達成に向けて、当社グループ全体で対処してまいります。

また、苦戦を強いられている北米事業につきましては、ボッシュから引き継いだ赤字契約の段階的終了、代替・新規ビジネスの獲得、収益改善のための諸施策の実行、中長期戦略に沿った設備投資などにより、将来の黒字化の目処がついてきました。平成24年度には大幅な収益改善、平成25年度には黒字化ができる見込みです。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成23年12月

■ TOPICS

当社製品が「未来技術遺産」に選定されました

当社が昭和53年に開発した「AD型ディスクブレーキ」が独立行政法人国立科学博物館の平成23年度「重要科学技術史資料（未来技術遺産）」に選定されました。この制度は平成20年度にスタートしたもので、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術資料」および「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術資料」の保存と活用を図るための登録制度です。平成23年度は150分野、13,101件の候補の中から「AD型ディスクブレーキ」を含め20件が登録され、9月27日に国立科学博物館で「重要科学技術資料」登録証と記念の盾が授与されました。選定された理由は当時、ディスクブレーキは全て外国技術の導入でしたが、AD型は曙ブレーキが独自開発したもので、国内自動車メーカーはもとより北米のピックアップ3の乗用車にも採用され、日本独自の国産技術が認められた時代を画する製品というものです。この製品は昭和56年度には権威ある「日本機械学会賞」を自動車部品業界として初めて受賞しています。



ベトナムに新会社設立を決定



ベトナムのハノイ市近郊に、二輪車用ディスクブレーキとマスターシリンダーの製造および販売を行うための新会社「アケボノブレーキ アストラ ベトナム」を11月に設立することを決定いたしました。これは中期経営計画のアジア事業拡大計画の一環で、伸長市場において受注拡大と利益貢献をすることでグローバルベースの競争力を強化するとともに、生産拠点分散によるリスク軽減を狙いとしています。新会社はインドネシアの当社子会社とインドネシアの有力企業である「ピーティー アストラ オートパーツ」と共同で設立し、平成24年7月の生産開始を予定しています。

自家発電設備を山形および羽生に設置



東日本大震災後の電力不足対策として、当社に必要な電力の一部を自家発電で賄う目的で、曙ブレーキ山形製造と本社（埼玉県羽生市）に自家発電設備を設置し、8月に稼働開始しました。山形製造の発電機は重油式、本社のものはガス式で、二基の発電量の合計は平成22年度の国内グループ会社のピーク使用電力の約40%に相当します。山形製造では5月中旬より、本社地区では6月上旬より設置工事を開始。発電機メーカーや建屋工事会社、電気設備施工会社などのご協力により、短期間での稼働を実現しました。

マクラーレンのGTレース専用車に製品供給



英国マクラーレン社がGTレース用として開発し、平成24年から販売予定の「MP4-12C GT3」に当社のブレーキキャリパーとブレーキパッドを供給することが決まり、9月に公表しました。当社は平成19年よりマクラーレンのF1チーム「ボーダフォン マクラーレン メルセデス」にブレーキシステムを供給していますが、F1用ブレーキ開発は徹底した軽量化と高剛性、優れた冷却性、常に高い信頼性と安定した性能を非常に高い次元で実現することが求められます。こうしたブレーキ開発で得た技術力と経験が評価され、今回のGT3レース用ブレーキシステム供給に至りました。

F1日本グランプリで当社ブレーキシステム搭載マシンが優勝



10月9日に鈴鹿サーキットで開催されたF1日本グランプリで、当社のブレーキシステムを搭載した「ボーダフォン マクラーレン メルセデス」チームのJ.バトン選手が優勝しました。10月11日にはチーム首脳陣が埼玉県羽生市にある当社本社を訪れ、講演を行い、社員約400名が出席しました。訪問の目的は、東日本大震災で被災した当社を応援したい、日頃のパートナーシップ支援に感謝の意を伝えたいというもので、J.バトン選手のビデオメッセージやチーム首脳陣からF1の技術やF1におけるブレーキの重要性などについてお話をいただきました。

フランクフルトモーターショー2011に出展



2年に1度ドイツで開催される世界主要モーターショーの1つである「フランクフルトモーターショー2011」が9月に開催され、当社は今回も継続して出展しました。今回はF1用ブレーキキャリパーや「マクラーレンMP4-12C GT3」用ブレーキキャリパー、ブレーキパッドなどのレース用製品に加え、電動ブレーキなどの次世代開発製品も展示し、技術力をアピールしました。また、当社がブレーキシステムを供給する「ボーダフォン マクラーレン メルセデス」F1マシンも展示し、大変注目されました。

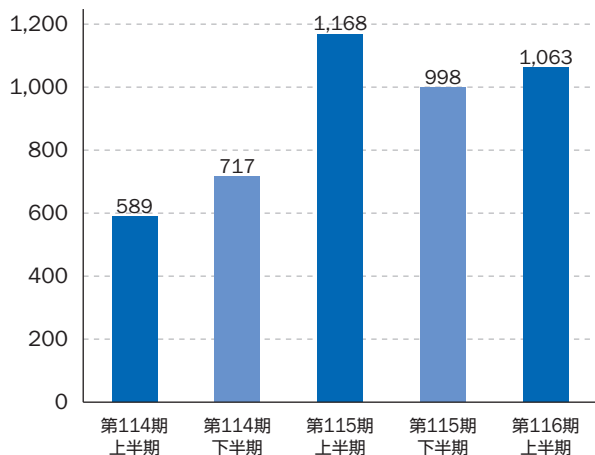
NACCO社より最優秀サプライヤー賞受賞



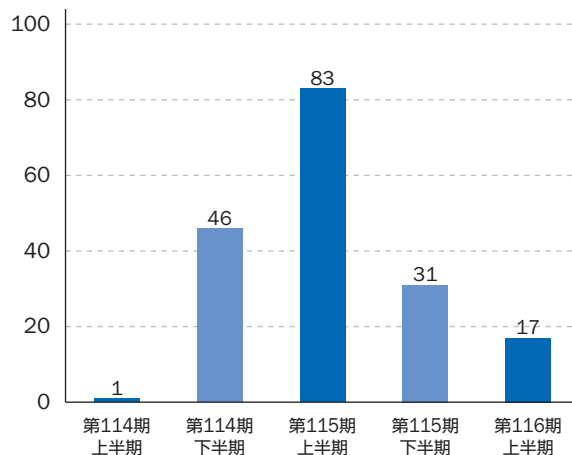
北米最大手のフォークリフトメーカーである「NACCO社」が最優秀サプライヤーに授与する「Above and Beyond」を曙ブレーキ産機鉄道部品販売(株)が9月に受賞しました。NACCO社は当社製品を20年以上に亘って採用していますが、今回の受賞は東日本大震災被災後の早急な復旧と迅速なリスク回避対応が評価されたものです。表彰式ではNACCO社より「曙ブレーキグループ一丸となった献身的対応とスピード、納期に対するこだわり、また、生産性・品質についても非常に満足しています」とのコメントをいただきました。

■ 中間連結業績の推移

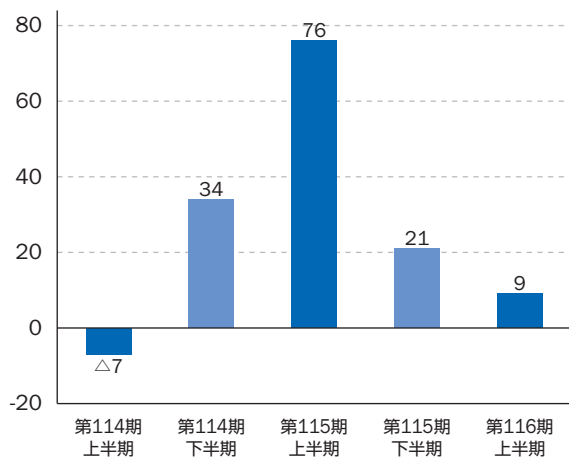
■ 連結売上高(億円)



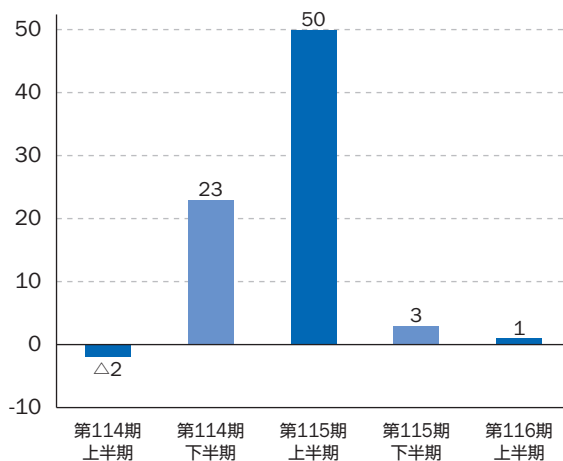
■ 営業利益(億円)



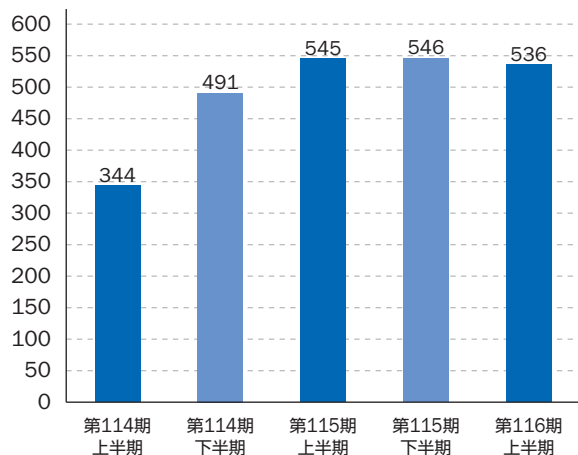
■ 経常利益(億円)



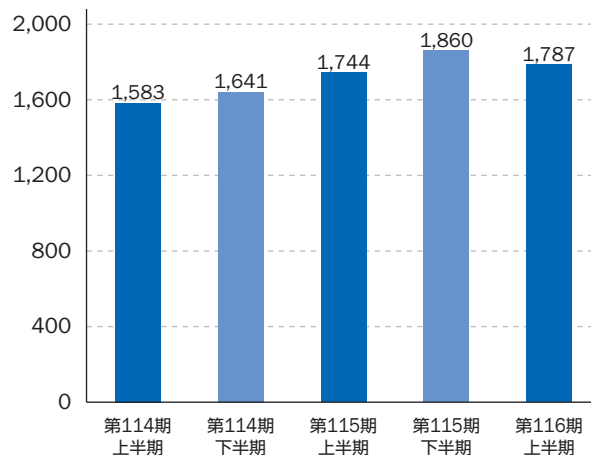
■ 当期純利益(億円)



■純資産(億円)

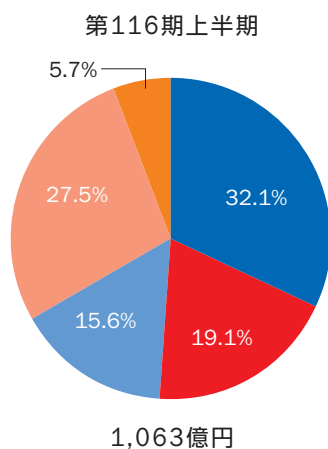


■総資産(億円)



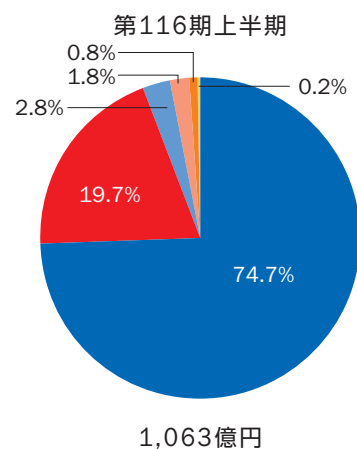
■製品別売上高

ディスクブレーキ	341億円	32.1%
ディスクブレーキパッド	203億円	19.1%
ドラムブレーキ	166億円	15.6%
その他自動車部品	292億円	27.5%
その他	61億円	5.7%



■事業別売上高

自動車メーカー向け製品	794億円	74.7%
補修部品向け製品	209億円	19.7%
産業機械向け製品	30億円	2.8%
鉄道車両向け製品	19億円	1.8%
センサー	9億円	0.8%
その他	2億円	0.2%



■ 中間連結貸借対照表/中間連結損益計算書

中間連結貸借対照表（要旨）

単位：百万円

科目	期別 前連結会計年度末 平成23年3月31日	当中間連結会計期間末 平成23年9月30日
■資産の部		
流動資産	100,958	91,771
固定資産	84,994	86,917
資産合計 *1	185,952	178,688
■負債の部		
流動負債	59,942	64,206
固定負債	71,438	60,868
負債合計 *2	131,380	125,074
■純資産の部		
株主資本	44,438	43,978
その他の包括利益累計額	2,711	1,976
新株予約権	283	339
少数株主持分	7,141	7,321
純資産合計 *3	54,573	53,614
負債純資産合計	185,952	178,688

- *1 主に、借入金返済や設備投資により現金及び預金が94億円減少しました。
- *2 主に、有利子負債が62億円減少しました。
- *3 主に、その他有価証券評価差額金が8億円減少しました。

中間連結損益計算書（要旨）

単位：百万円

科目	期別 前中間連結会計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当中間連結会計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	116,781	106,330
売上原価	99,685	94,598
売上総利益	17,095	11,732
販売費及び一般管理費	8,840	9,984
営業利益	8,256	1,747
営業外収益	350	222
営業外費用	970	1,095
経常利益	7,636	874
特別利益	413	*4 809
特別損失	77	*4 808
税金等調整前中間純利益	7,972	875
法人税、住民税及び事業税	741	937
法人税等調整額	1,362	△746
法人税等合計	2,103	191
少数株主損益調整前中間純利益	5,869	684
少数株主利益	917	538
中間純利益	4,952	146

- *4 自家発電機導入による政府補助金収入8億円が特別利益に、固定資産圧縮損8億円が特別損失に計上されています。

■ セグメント情報/中間連結キャッシュ・フロー計算書

セグメント情報

前中間連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）

単位：百万円

		日本	北米	欧州	中国	タイ	インドネシア	計	調整額	連結
売上高	(1) 外部顧客に対する売上高	44,486	60,119	1,495	2,475	1,598	6,607	116,781	-	116,781
	(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3,854	99	475	8	75	600	5,111	△5,111	-
計		48,341	60,218	1,970	2,483	1,673	7,206	121,892	△5,111	116,781
営業利益又は営業損失（△）		4,969	1,365	△67	428	218	1,269	8,182	74	8,256

当中間連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）

単位：百万円

		日本	北米	欧州	中国	タイ	インドネシア	計	調整額	連結
売上高	(1) 外部顧客に対する売上高	42,305	51,276	2,092	2,403	1,529	6,725	106,330	-	106,330
	(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3,845	92	551	1	62	502	5,053	△5,053	-
計		46,150	51,368	2,644	2,403	1,591	7,227	111,382	△5,053	106,330
営業利益又は営業損失（△）		2,467	△2,518	△121	323	178	1,301	1,630	117	1,747

* 「営業の概況」（3ページ）にセグメントごとの業績について記載しています。

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位：百万円

科目	期別	前中間連結会計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当中間連結会計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,275	△1,042
投資活動によるキャッシュ・フロー		△2,507	*5 △10,355
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,836	*6 △6,904
現金及び現金同等物に係る換算差額		△43	2
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）		889	△18,299
現金及び現金同等物の期首残高		21,552	38,461
現金及び現金同等物の中間期末残高		22,441	20,163

*5 主に、設備投資59億円、3ヶ月超の定期預金等の純増額40億円によります。

*6 主に、長期借入金の返済67億円によります。

■ 株式の状況/役員一覧

株式の状況(平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数：440,000,000株

発行済株式の総数：135,992,343株

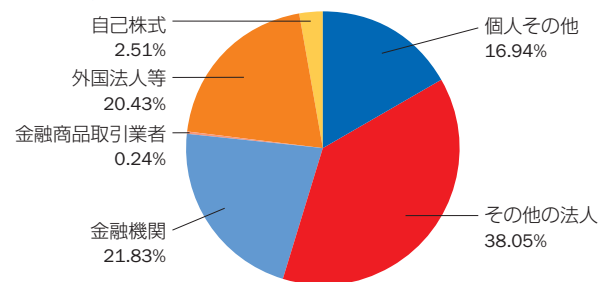
株主数：13,172名(前期末比206名減少)

大株主(上位10名)

株主名	株式数(千株)
トヨタ自動車	15,495
ロバートボッシュエルエルシー	12,597
伊藤忠商事	10,553
ドイチェンバンクアーゲーフランクフルト	5,900
いすゞ自動車	5,748
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	5,732
BBHポストンメツラーインベストメント	5,261
資産管理サービス信託銀行(年金信託口)	4,564
アイシン精機	3,133
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口9)	3,039

※平成23年9月30日現在の株主名簿に基づく
 ※当社は自己株式を3,418千株所有しております

株式数比率



個人その他	12,838名	23,042,535株	16.94%
その他の法人	168名	51,745,359株	38.05%
金融機関	37名	29,682,797株	21.83%
金融商品取引業者	35名	321,642株	0.24%
外国法人等	93名	27,781,613株	20.43%
自己株式	1名	3,418,397株	2.51%

役員(平成23年10月1日現在)

取締役

代表取締役	信元 久隆	荻野 好正	
取締役	西垣 順充	工藤 高	斉藤 剛
	宇津木 聡		
取締役(社外)	伊藤 邦雄	鶴島 琢夫	

監査役

常勤監査役	木村 恵司郎	後藤 和彦	
監査役(社外)	遠藤 今朝夫	本間 通義	淡輪 敬三

執行役員

会長兼社長	信元 久隆		
副社長	荻野 好正		
専務執行役員	西垣 順充	工藤 高	斉藤 剛
	宇津木 聡	小林 浩治	奥村 健
常務執行役員	出嶋 清		
執行役員	若林 亨	細谷 智	安藤 雄次
	青柳 伸治	出井 浩	

執行役員待遇

常務執行役員待遇	松本 和夫		
執行役員待遇	伊東 良平	尾高 成也	宮嶋 寛二
	安藤 昌明	高橋 正基	小野田 誠二
	根岸 利行	Peter Schmitz	

顧問・相談役

最高顧問	J. W. Chai
相談役	桑野 秀光
技監・社長補佐	横尾 俊治

注1. 執行役員待遇とは、当社の海外子会社にて勤務する者のうち、当社の執行役員と同等の処遇を受ける者をいいます。

注2. 平成23年11月1日付で、松本 和夫は常務執行役員待遇から常務執行役員に、宮嶋 寛二は執行役員待遇から常務執行役員待遇となっております。

■ 株主メモ

商号	曙ブレーキ工業株式会社	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
本店(グループ本社)	〒103-8534 東京都中央区日本橋小網町19番5号	特別口座 口座管理機関	
Ai-City(本社)	〒348-8508 埼玉県羽生市東五丁目4番71号 Tel 048-560-1500(代表)	同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711(通話料無料)
創業	昭和4年(1929年)1月27日 (設立 昭和11年(1936年)1月25日)	上場証券取引所	東京証券取引所
資本金	19,939,380,530円	単元株式数	100株
従業員数	7,685名(連結ベース)	証券コード	7238
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.akebono-brake.com (ただし、事故その他のやむを得ない理由によって電子公告をすることができない場合は、東京都で発行される日本経済新聞に公告いたします。)
期末配当金受領株主確定日	3月31日		
中間配当金受領株主確定日	9月30日		
定時株主総会	毎年6月		

【株式に関するお手続きについて】

○ 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*) 	特 別 口 座 口 座 管 理 機 関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711(通話料無料)
<ul style="list-style-type: none"> ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ 	株 主 名 簿 管 理 人	[手続き書類のご請求方法] <ul style="list-style-type: none"> ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479(通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

○ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ 	株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711(通話料無料)
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

סרסלס